

引継ぎ時に課題が発生し、引継ぎのタイミングがつかめないケース

圏域 松戸 センター名 ビック・ハート松戸

氏名	T・C	居住形態		家族同居	GH	（ <u>単身</u> ）	その他
手帳種別及び等級	精神保健福祉手帳 2級	年齢	50歳	性別	女		
成育歴および現在の生活状況	<p>【成育歴】</p> <p>東京都で出生した。小学校入学前にM市に転居する。父親、母親、姉、弟と5人暮らしであった。母親からは昔から厳しく叱られており、T・Cは自分の選択に自信が無くなっていった。母親はT・Cが46歳の時に誤嚥性肺炎で逝去。その翌年、父親も胃がんで他界。</p> <p>姉は家を遺産として引き受け、T・Cは父親から生前贈与を受け取っていた。弟は姉とそりが合わずに家を出ている。</p> <p>T・Cが姉から暴言を受けているとM市内の基幹相談支援センターに相談した履歴があるが、現在姉は別の家を買って他市に転居している。転居後は、関係が改善されている。</p> <p>【生活状況】</p> <p>T・Cのみ両親が残した家で1人暮らしをしている。現在は通所していた就労移行支援事業所経由で小売店に勤務している。給与に加え、障害基礎年金2級を収入として生活を送っている。姉がT・Cを心配して、定期的に掃除などの家事を手伝いに来ている。</p>						
就業前の訓練事業所	A事業所	サービスの種類	就労移行支援事業	期間	1年2か月		
就職先	B社		入社日	H29.1			
業務内容	店舗内接客・軽作業（品出し・陳列など）						
就業先企業情報	<p>業種：小売業（生活用品販売）</p> <p>従業員数：440名（外パートタイマー10,405名）</p> <p>障害者雇用歴：法人全体での雇用歴は不明。</p> <p>その他：優しい人が多く、昼休みも雑談している。店長は快活な方で、従業員の体調には気を配ってくれている。</p>						
就業前の課題	基本的なコミュニケーションは取れているが、以前交際していた男性と連絡を取ったことがきっかけで落ち込んだり、友人とメールでケンカをして通所が出来なくなったりと、プライベートの過ごし方に課題があった。						
就労定着支援個別支援計画	-						

<p>課題解消に向けた 支援体制</p>	
<p>障害者就業・生活支援 センターと就労定着 支援事業所間の 連携経過</p>	<p>平成29年1月の入社当初から、A事業所がアフターフォローとして支援を行っている。就業から半年が経過した段階で、就労定着支援事業の利用を開始している。就労定着支援事業終了後の支援の引継ぎを見据えて、令和2年6月にナカポツセンターにてインターク・登録を行っている。</p> <p>入社当初は、友人や姉とのやり取りで不安を感じ、体調を崩して欠勤することが度々あった。ただ、引継ぎの段階では、以前より欠勤は減っているとのことと令和2年7月29日に引継ぎの訪問を実施。</p> <p>訪問時に、仕事に行く気力が湧かなくなっていることが判明。7月だけで遅刻が3回、欠勤が3回あった。A事業所の御厚意で、体調が安定するまでは支援を継続してもらうこととなった。正式に引継ぎが完了するまでは、ナカポツセンターが定着訪問に同席する形での連携体制とした。</p>
<p>具体的支援経過</p>	<p>H29.1 B社に就職。</p> <p>H29.7 半年間のアフターフォローを経て、A事業所による就労定着支援事業の支援開始。入社当初は、店長が発破をかける意味合いで言ってくれた「仕事を覚えなきゃだめよ」という一言に過敏に反応して体調不良に陥ることもあった。</p> <p>基本的には長期の休みにつながらず、翌日は入社出来ていた。月2～3回、欠勤することがあるが、長期間欠勤することはない。</p> <p>R2.6.10 A事業所からの引継ぎを見据え、ナカポツセンターにてインタークおよび登録を行っている。</p> <p>R2.7.29 A事業所の担当者で職場訪問を行う。引継ぎ支援の予定だったが、勤怠状況が悪化していることが判明。すぐの引継ぎは行わず、次回の訪問時に引き継げるか判断することとなった。</p> <p>T・C曰く、姉が仕事を退職したらT・Cの住んでいる家を売ると言われたことが体調不良の要因として考えられるとのことだった。</p> <p>R2.9.11 2回目の職場訪問を行う。プライベートで知り合った友人が23時過ぎに電話をかけてきて、生活リズムが乱れ、朝が起きられなくなり8月24日から9月7日まで休んでしまったことが判明。今後は夜間の電話に出ないことを心がけてもらうことになった。</p> <p>A事業所の御厚意により、引き継げる状況になるまでは、無期限で支援を継続すると打診をいただき、了解している。</p>

<p>具体的支援経過</p>	<p>R2.10.9 A事業所より共有の連絡が入る。職場訪問後も勤怠が悪く、欠勤が続いたため、A事業所にて面談を行ったとのこと。</p>
	<p>R2.10.9 姉からいずれ家を売ると言われたことも影響している可能性があるが、T・C自身が体調の悪さを正確に把握が出来ていない。体調管理の記録をつけるようにしたが、書いていると自分がダメな人間に感じられるといった理由から、やりたがっていない。次回の訪問時に体調との向き合い方について話し合うこととなった。</p>
	<p>R2.10.19 A事業所より共有の連絡が入る。引き続き欠勤が続いているとのことだった。</p>
	<p>R2.10.22 A事業所にてT・C、職員でケース会議を行う。T・Cのモチベーションが低下しており、接客に対して負担感を感じていた。当面は休職で体調回復に努めてもらい、A事業所で使用していた体調管理シートを基に、体調悪化の原因を分析してもらおうこととなった。また、今後の働き方についても、接客の割合を減らしてもらおうなど、企業で打合わせの必要性があることを話し合っている。</p>
<p>現在の状況及び支援効果</p>	<p><現在の状況> 体調不良のため朝に起きられない状態が継続している。令和2年10月に入ってから出勤が出来ておらず、店長からは体調をしっかりと戻すようにとだけ言われている。今のままでは仕事が続けられるのか不安とのことで、休職制度を活用して、体調回復に努めてもらうことになっている。</p> <p><支援効果> A事業所から、T・Cへの速やかな連絡や面談の実施を行っている。都度、B社の担当者である店長にも共有を行っているため、T・Cの体調こそ伴わないものの、関係性の構築は出来ている。</p> <p>また、A事業所が就労定着支援の実例が少ないということもあるため、ナカポツセンターはアドバイザーとしての役割でT・C、A事業所に助言を行っている。A事業所からは、支援上助かっているとお声をいただいている。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p>	<p>今回のケースでは、A事業所からの申し出で、引継ぎ時期を延長してもらうことが出来た。しかし、全ての事業所が柔軟に対応してもらえるかは疑問に感じるところである。もし引継ぎ時期に問題が発生し、そのまま支援を引き継がれた場合、T・C、B社の不安感の悪化や、最悪離職となるリスクは無視できないものと考えられる。</p> <p>各事業所においては、このようなリスクを想定し、どう対応するかのガイドラインを策定してもらいたいと感じる。</p>
<p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>	<p>A事業所にとっては、支援実例が少ないため、どのような形で支援を組み立てていったらよいか試行錯誤の状態である。そういった意味では、ナカポツセンターが複数回に渡り、同行訪問をしてもらえるのは、支援においては安心感が大きいという意見をいただいている。</p>